

道路交通法改正試案（抜粋）

1 高齢運転者標識制度の見直し

平成19年の道路交通法改正によって導入された、75歳以上の運転者に対する高齢運転者標識（もみじマーク）の表示の一律義務付けに関する規定は、当分の間、適用しないこととし、70歳以上75歳未満の者と同様に努力義務にとどめることとします。

【参考】

- * 道路交通法第71条の5第2項は、普通自動車を運転することができる免許を受けた者で75歳以上のものは、高齢運転者標識を付けないで普通自動車を運転してはならないと規定していますが、これは、平成19年法改正当時、高齢運転者標識の表示率が低かったことを踏まえ、75歳以上の運転者に対しては表示を一律に義務付けることもやむを得ないと判断したものです。
- * 上記の改正規定は平成20年6月1日から施行されましたが、警察としては施行日から1年間を制度周知のための期間として、高齢運転者標識の表示義務違反の取締りを行わないとしてきたところです。その後、今日までの広報啓発活動等の結果、75歳以上の運転者の高齢運転者標識表示率が75.4%にまで上昇する（平成20年9月のアンケート調査の結果）など高齢運転者の交通安全に関する意識が高まっています。
- * これらの状況を踏まえると、今後も、広報啓発活動に引き続き積極的に取り組むことにより、高齢運転者標識制度を普及定着させることが可能であると考えられますので、当分の間、75歳以上の運転者についても、70歳以上75歳未満の者と同様、高齢運転者標識の表示を努力義務にとどめることとします。今後は、高齢運転者標識の普及定着状況等を踏まえて、改めて標識表示義務の在り方について判断されることとなります。
- * 1の改正は、「高齢運転者の支援に関する検討委員会」が平成20年12月に取りまとめた「高齢運転者の支援等について」を踏まえて行うものです。